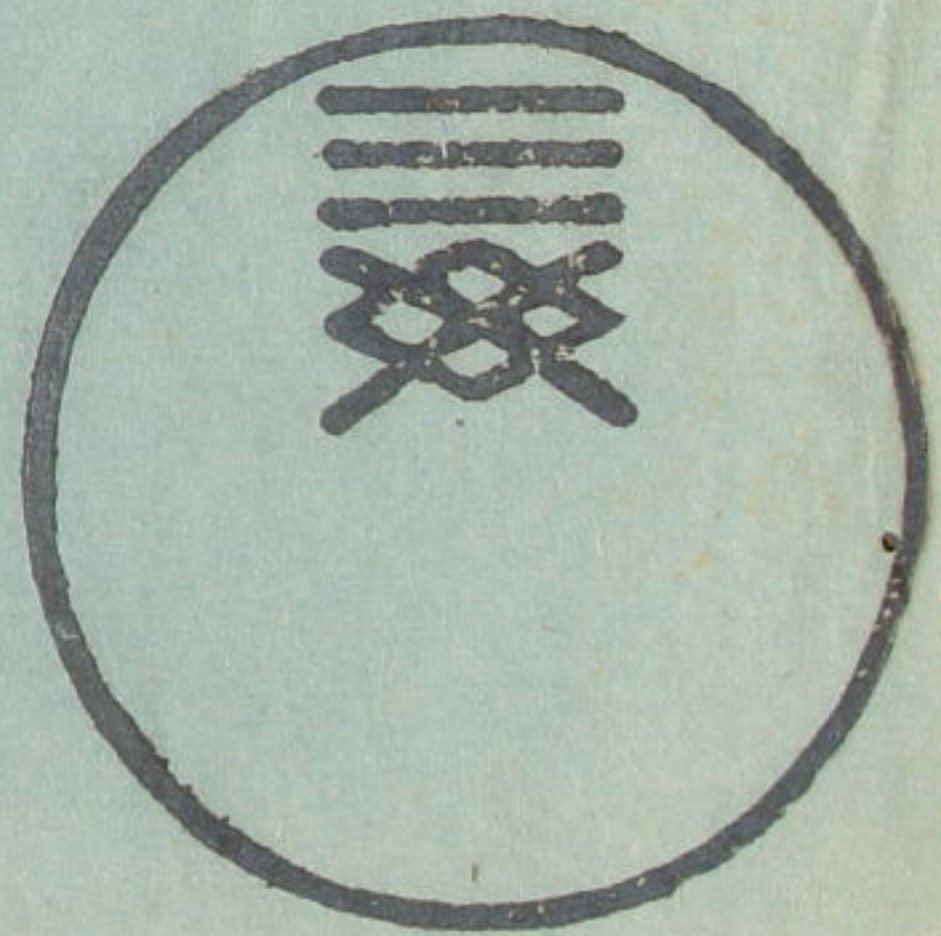


三
世
寫



春興

江南に魚鱗

るるり

字めあふ

北齋主人

露僊子

表合 雪月花 寄梅

泉鶴

雲英文庫

醉捨ふ鶴を梅のやむめの言
春もあつゝま山里のうれ
菅菰の棚くまもさるむ日に
布産あつゝかろし一好子
今新代かたつゝその清繁昌
棧つゝ本曾所移風
肌字も月あ訓まゝ麻の拍
筋子乃花の末水も吟く

北洋 移文 梅曉 掬汶 唇風 石柴 三貫

石屏

有の如新端不きく梅くかゝる
 うの礼物に何事啼く声
 きく浪小蛤ゆりけ戻るん
 弁内侍の象簾かげけり
 飯米を小玉く買つて俵かり
 板りなまゝてむ若城千に
 神、うりまゝに木の葉の形を
 うししふく冬うれの中
 宇弘
 才雅
 杉竹
 思城
 桃紅
 梅溪
 孤松

董芝

柴折戸や梅のつ花の備つ年
 東風白くまけあめ雪
 杉亭

阿蒙陀くわく糖ひくふく
 男めかけよかき居る
 多の窓をひくまはりけき
 名くおの関名のとまかり
 三味線ありれは糸ぬ山乃月
 秋風
 敬亭
 梨柳
 之風
 田履
 自放

當季 乱題除梅

解き宿をさくさくさくさく
 草むら稚子のさくさくさく
 こゝろよふ松風酔ぬまはり
 野庭や風もあけく卵売
 爽齊
 三貫
 思城
 移文

明くゆく潮の巻や牙かゝる
 才雅
 春の麻月ふらうき顔又伊
 掬汝
 最おしく大津の結ゆ写さる此を
 柳愚
 うらやすも連らほし朝のつる
 梅裡
 袖も小雪を吹らしる葉飛辺
 菊姿
 酒りふらうしひきのつく柳のつる
 窗雨
 外も雀よかすく草一若ぶ少年
 澄秋
 元山やすつり花れはけし雪く
 雪岡
 庭まじりや退屈久ゆ針磨キ
 志厚
 花らうや易乃素讀まふる也
 樵路
 甘くさきまふりぬそ白梅
 梅曉

鐘かすむ山陽くや信の所
 唇風
 花の戸あひくもるや杉拾以
 杉竹
 正許のちりそほそし茶種を
 左橋
 獨釣ちあら月小この影のつる
 桃紅
 おちくまのそほそめがり
 梅溪
 志川子を花ふゆつる江のり
 田履
 うなひすや二階もこまれ居
 梅弘
 宿川乃堤ふねむむ桂か那
 犁柳
 浦風流等うらまね花
 之風
 木瓜の花牛うの家ハ丘み奥
 春調
 醉さめや机を拂ふ海苔乃砂
 敬亭
 五時のあきくく帰る丁
 秋風

窮の堀ふなほくぬや別きまゝ
 草麦より家鴨も玉子おこしり
 兒れおこくまのつきく捨させし
 細おれ結さうし腰ふ挿さるる
 陽さや目眩空むきハ返さ山
 翠ふ節かけて花消日暮かな
 那く鶴のちいさくこく春の風
 雨乃後ともあしりわくむ汁
 油くらの名くをけむや雪の御
 紫越けハおちぬの葉ハ散ふら
 七部大鏡と園を撰者の信は感し空しく鳥兒と書せし我よとく
 雨のひは外もふ花のさつら
 宇弘

秀冲

全交

吾蝶

三才

文止

孤松

里桃

壽鳥

露明

尺草

何々のあを枯木をまきせら
 山家粟飯おれくまきく春乃開
 北洋 杉亭

田家麦まけて淋しき芥乃四隅うな
 宮の灯ゆり消す雜子お形、
 行脚 夕旦 文止房

世跡を尋てハ醒さし春乃自
 まき麦や鷹ふ存さくく多披す
 うら以まに水くくさおあめ代
 及屋すし山の井ぬむ松の蔭、
 臍おやむくの京ふ旅を掃す
 曝布危ら脊戸と取けハ砂くく
 村三 龜川
 芳洲
 環山
 花洲
 今可 棹翠
 徐吹

几中破きて春の心を沸ししなり 菘三 流憩
 きししのあしきふ押しし 九ノ子 喜月
 我う影も夕りり 山五 春橋
 花のおやゆ所へはきく袴もさる、
 蝶々や花おる人のあかしの影 大面 百花
 春のや一日おふり影もさる 三林 詠盟
 幼きや孫か 九山 方珪
 過ぎや 鷹樹
 多のきも 野口 荷月
 藤 石上 以螢
 啼り 山藤
 海 保内 和口

破窗 中新 春裡
 貝拾ふ影も 今井 芝萱
 米負 可ヤキ 志芳
 毒 兒キ 左流
 凍 次シ 鷹鳥子
 酒 小セキ 里雪
 雨 栗林 倍里
 春 釣寄 琴松
 記 内町 芦泉
 無 速 柳陂
 猫 アヲホ 孤舟
 蟹 フヲホ 如水
 破 中新 春裡

其の山むののくをきこひし 小長七

○ 上新瀉

永きりそをやふくく 庵ん路の脛 天池
わく 葺乃小家をききと揚ちて 崔 櫻里
花の枝もりりけけくや 若菜つて 梅路
若風や小松の中ふ 匍匐ふく 貞父

○ 三条

妹の子の葉子とてや 酒乃酌 湛泉
あが乃月流くくし夕柳 松花
草一の戸も能く人乃 来る 雲の比 宇口
也余さやせくもひくく 阿弥陀仏 アミト 要我
苗代や 尖着の山田の 妻 逢き 日光 里竹

○ 和田雲松屈社

鐘つや柳あし 新木 瑠璣
すくくもききとらふ 強くや 妻のあ 里桐
海士の聲 遠く物も入る 松をうり 大田 友興
若菜の乃 小よき 茶の香くうか 梅旭
紙帯織るや 春の住る 中乃 柳下町 為之
月四つてつらき 池ノミ さはや 路る 丁 李冠
梅むく 柳あはく むわく 家なる 柳暁
夕涼や かなみまら つき 小松山 時水 花夕
里の子れ 再さし 智ふ 妻乃 乃 南里
云々 ワタ 那後の小松 不飽く 日さき 知月
系掛や 柳うり 此の水 多きより 文路

杉風ふりまきかき乃凡中
 深殿ふ能き色く川春の風
 眠りまき宿とちりて燕乃菜
 うらひまきやあす来りまき
 草掃との詞平程ふや演のた
 花吹くや人共命あまの

和口
 嘉華
 勇鳥
 梅虹
 玉貫
 石柴

追加

近ゆれハ杉とあうらる春の草
 細粒とまきあけし春あるる
 長留
 古柳

三家
 文思

白雪乃爾まき降る春の雪
 蝶まき家ふかき極の雪
 松茂久
 石棧

文政四辛巳歳春日

北越見附鎮

下会町 小泉貞治刻

